

---

# 母と鏡

小野 大介

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

母と鏡

### 【Nコード】

N4987T

### 【作者名】

小野 大介

### 【あらすじ】

祖母が亡くなり、その葬式

祖母が大切にしていた姿見の鏡は、まだ幼い孫になにを伝えたかったのでしょうか……？

(前書き)

鏡。

鏡は、世界をありのまま、反転させて映し出すだけでしょうか？

人の目には見えないものを映してしまうことも、あるかも……。

物心がつく以前のこと、朝方に祖母が亡くなりました。

私は、祖母のことを憶えていません。幼かったからかもしれませんが、印象に残っていないのです。思い出そうとしても、浮かび上がるのはシルエツトばかり。

ただ、母とは頻繁に言い争っていたような……。

多分、お葬式だったと思いますが、母に両親の寝室で大人しくしているよう託けられ、私は着せ替え人形などを相手に独りで遊んでいました。

寝室には大きな鏡がありました。大人でも全身が映せるほどの、大きな鏡でした。

独り遊びにも飽きてきた頃、ふとパタパタというスリッパの音が近づいてくるのに気づきました。母が私の様子を見に来たのです。

障子に背を向けていた私は、喪服姿の母を鏡越しに確認しました。沈み行く夕陽を遮るような形で立つ母は、少し陰りを帯びていました。

諭すような口調の母

私は母の方に振り返りながら、素直におもちゃを手放し、両親の寝室を離れようと立ち上がりました。そのとき、ふと鏡の世界が目に入りました。

こちらとなんら変わる事のない寝室

あちらにも、夕陽が差し込んでいます。ちょうど母の頭が、私の頭の上にあります。やはり母の顔は陰りを帯びていました。

そのときです、私はそれに気づきました。

鏡に映る母の頭に、二本のなにかが突き出ていました。

わずかに反った細長いそれが、当時の私にはわかりませんでした。私は振り返って、母の頭の上を見ました。すると、私が振り向く

よりも早く、母はその場から立ち去ってしまいました。私は首を傾げながら、無言のままに去ってゆく母の後ろ姿を不思議そうに眺めていました。

廊下を曲がる母の頭に、それはありませんでした……。

両親の部屋にあったその鏡は、少し前までは祖母の部屋にあったものでした。

私が見たそれがなんだったのか、いまとなっては確かめようもありません。何故なら、その翌日、あの鏡は割れてしまったのです。どうして割れてしまったのかは知りません。

あれからというもの、母は、鏡という鏡を避けるようになりました。

もしかすると、鏡に映る自分の姿を見たくないのかもしれないかも……。

(後書き)

いかかでしたか？ 楽しんでいただけましたら、幸いです。

様々な方のご意見をうかがいたいので、評価や感想を頂けましたら助かります。あと、とっても嬉しいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4987t/>

---

母と鏡

2011年10月9日03時28分発行